

■仙台市若林区

記者が見た被災地

東日本大震災の現場から

東日本大震災の被災地に派遣された医療班が行き、4月末、仙台市若林区の避難所を回った。医師や看護師ら6人は、香川労災病院（香川県）の所属。健康不安をなかなか打ち明けられない被災者に、細やかな心配りで接する医師らの姿が印象に残った。

【矢島昌枝】

◆汽車ばっぼ体操 らいいのか。正直、緊張「どんな言葉も掛けた。出発前、医師

打ち明けられない健康不安

医師、細やかな心配りで対応

歴約20年の精神科医、小生かし、痛みや不安を和らげたい。そんな医療班の思いを感じた。小山医師は「医師の初心を思い出し、被災者の方々に感謝したい」と振り返った。

避難所の一角、佐藤美紀さん(35)は、長女の伴桜ちゃん(1)と一緒にいた。自宅は壊れたが天井が崩落。美紀さんは伴桜ちゃんを背負い、片付けに追われた。

「四国から来た医療班です」。医師が自己紹介すると、美紀さんは肩震りや頭痛があるが、授乳

生活かし、痛みや不安を和らげたい。そんな医療班の思いを感じた。小山医師は「医師の初心を思い出し、被災者の方々に感謝したい」と振り返った。

避難所の人々は、とても辛抱強かった。どうすれば被災者が気軽に相談

腰をさすりながら医師が話を聞くと、「実は」と話すが、話が通じない様子があった。

翌日は朝食時に会った。「お昼を持ってくる」と頼まれたので、快く引き受けて届けた。後、医師が松に指



1歳の長女伴桜ちゃんと避難所にいた佐藤美紀さん。筋肉の緊張を和らげる「汽車ばっぼ」の体操を医療チームから教えてもらった

中で服薬をきまらなければいけない。がれき撤去などで外出しているからだ。午前10時、小学校の体育館で、伴松野子さんと68歳が横になっていた。体調が悪かったが、医師にはあがって談笑していた。医療班を見ていると「元



「お」と写真を撮って」と大田さんに言われた。意外に理由を尋ねると「津波で全部壊れたから」と話した。写真が撮られたのは、被災者の健康を心配して心を決めた。写真は撮影後、手紙と一緒に配達された。

あらゆる知識・経験を

「写真を撮って」と言いながら、とまぎらの笑顔を見せてくれた大田小春さん